

平成 15 年 10 月 19 日(日)13:00 ~ 16:00

会場:上尾市文化センター 201 号室

## 1. 開会

## 2. 主催者挨拶

【入江所長】

本日は秋晴れの、絶好の行楽日和の中、みなさまにお越しいただきまして、誠にありがとうございます。前回の協議会でこの太郎右衛門地区をどうしていきたいかという方向性を皆様に議論していただきまして、だいたい大まかに意見の一致が見られました。今の湿地環境を残すとか、できるだけ水を確保する等の点で意見の一致を得ました。ただ前回の協議会でも、具体的な事業計画を提示してもらわないとこれ以上の議論ができないとの意見もございまして、今回の協議会では水の確保という観点から、どういう手段が、どういうメニューがあるのかということ事務局から提示させていただき、それを皆様に揉んでいただいて、この荒川太郎右衛門地区を具体的にどうしていくのかを皆様に議論していただきまして、この地区の将来の絵姿を決めていただければと思っております。皆様の活発な議論をお願いいたしまして最初の挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

## 3. 会長挨拶

【浅枝会長】

本日は本当に行楽日和にもかかわらず、これだけの方にお集まりいただきましてありがとうございます。

先程所長さんからご説明がありましたが、前回に大まかなところが決まりました。基本的には湿地環境で、多少流れる所があっても良い、また、非常に大きな工事は避けたいが、水は確保したい、などといった内容で皆様の意見の一致を得ています。

ところが実際には人為的に作るという事ですので、さまざまな工事が伴います。その工事の結果 10 年後、20 年後に生態系が回復してきます。ただ、工事というのは私共素人には分かりにくいものです。また、それで、どういった環境ができるかというのも分かりにくいものです。それらについては事務局から説明をしていただいて、それを踏まえつつ、どういった環境ができるかを頭の中に絵を描いていただいて、この対策が良さそうだといった事を決定していただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

## 4. 議事

(1) 自然再生協議会のスケジュール確認および第2回協議会の合意事項について

(事務局説明) [資料 - 1 参照](#)、[資料 - 2 参照](#)

## (2) 目標設定に向けた事業メニューについての説明

(事務局説明) [資料 - 1 参照](#)

< 質疑応答 >

### 【出村委員】

- ・7ページで工事は「水替え」により行うとありますが、「水替え」とはどのようなことでしょうか。
- ・7ページの条件のところを高水敷を掘削するとなっていますが、全体を掘削するように聞こえます。これは旧流路の入口と出口の河床の高くなっているところを掘削するという意味でしょうか。
- ・積算のところを皆、バックホーとなっているが、現在水が貯まっている所では浚渫を行わないのでしょうか。
- ・前回の合意事項ではポンプアップや大規模工事は考えないとなっています。しかし、No.3,5,9,10 はポンプアップや大規模な工事である。これらを今回の案の一部として考えて良いのでしょうか。
- ・評価の所で先に○とか×がついているため、考えが誘導されてしまうのではないのでしょうか。×の評価のものでも、皆の合意があればできるのでしょうか。
- ・この表にないものの組み合わせはできるのでしょうか。

### 【浅枝会長】

非常に多いので1つ1つお願いします。

### 【事務局】

- ・最初の7ページ No.1 - 2 案については、色々な掘削深さで、またユニフロートを使ったりと色々な案がある中で水替え案を出してただけであり、まだ決定ということではありません。
- ・No.2 案の条件で、高水敷を掘るというのは、旧流路を掘削する上で旧流路の幅を多少広げる必要があり、高水敷の一部が掘られるという意味合いです。
- ・浚渫については、浚渫船を入れる様な大規模なことは考えていません。現在の費用はバックホーで行った場合であり、やり方により値段は変動します。
- ・表の案は事務局から提示した案でこれ以外の案も当然あります。その案についても取り入れる必要がありますし、事務局で×をつけた案でも皆様の合意があれば(実施案として)あり得ると思います。
- ・もう1点、表にない組み合わせができるのかとの事でしたが、場合によってはあり得ると思います。22 ページの表で掘削と本川 - 上池の接続とボックスカルバートによる通水というのがありますが、これに雨水の利用を加える事も可能という意見もあると思います。というように、ここに出ているメニューの組み合わせが全てではなく、個別にメニューを考えた場合に、他の組み合わせもあり得ると考えていただいて結構です。
- ・それから、前回の合意事項で、基本的には動力を使うものは案として考えないという方向性はありましたが、今回の事業メニューとしては色々な組み合わせがあるので、案として考えられるものを全部出して表にまとめてみたというところです。
- ・前回の協議会で行森委員から、色々な組み合わせが考えられ、金額もある程度出て

いないと案として考えられないのではないかとこの意見があったので、合意事項に（動力を用いない、大規模なことをしないと）ありましたが、あえて出させていただきました。

【野口委員】

6 ページにポンプの口径 150mm、とか 11 ページに 2.4m<sup>3</sup>/min とありますが、ポンプの量の決め方に根拠はあるのでしょうか。

【事務局】

ポンプの決め方には特に根拠はなく、2.4 m<sup>3</sup>/min という一般的なポンプをあてがったのみです。ポンプの台数も最小の数で考えています。

【野口委員】

2.4 m<sup>3</sup>/min あれば充分だということですか。

【事務局】

そうではなく、仮に一般的なポンプを充てた時に 24 時間稼働させると、上池では 10cm 水位が上がるという事になるというだけです。水量から想定をしてポンプを決めたわけではありません。

【入江所長】

補足しますが、今回メニューや事業費を提示しましたが、今回の協議会での資料として概略を出したものであり、費用やポンプの容量はかなりおおよその数字であると理解してください。とにかく、1つの数字を使って出してみたという程度に考えてください。また、ポンプを使うとすれば、（ポンプの容量等は）これから決めることになります。とにかく議論のたたき台として出したと考えていただきたいと思います。

【菅間委員】

・ 前回の合意は合意でよいのですが、それ以外の話として対象地域の拡大等があり、また今回の第四調節池の計画が自然再生地と重なっているが、そういった場合に自然再生計画がどの様になって行くのか、また計画の調整等はどうなっていくのでしょうか。その辺について不安があります。もしできないのであれば、前にあったように対象地域を拡大していく必要があるのではないのでしょうか。そうした場合に、（対象地を）今は、あくまで旧流路だけとするのでしょうか。

・ 前回、モトクロス場をどうするか等の話が出ていましたが、その辺りの内容があいまいなまま進んでおり、次に問題が起きそうな気がしますが大丈夫でしょうか。

【入江所長】

・ あまり（対象地を）広げすぎると話がまとまらないので、対象地は旧流路周辺のみとした、という認識が私にはあります。前回の合意事項で本川の環境も今後の課題とするとの話もありましたが、今回議論するのは旧流路についてのみであり、将来的に対象地が広がるかもしれないが、当面は対象地域を旧流路のみにさせていただきたいとの解答を（前回）した記憶があります。

・ それから第四調節池の工事は実際には 100 年後頃であり、私自身はその時に考えれば良いと考えています。しかし旧流路を流水環境、洪水を流す環境にするのであれば、第四調節池には水門が 2 個必要であり、22 ページの表の一番下に書いてあるように、

水門 2 個分、100 億円が余分にかかるということだけ念頭に置いていただきたいと思います。

・土地利用について考えないのか、とのお話がありましたが、今回は「水の確保」という話にしぼって資料を出させていただきました。「水の確保」の方法が決まれば、この辺りの絵姿、根幹が決まると思われれます。湿地を広げる等の話もありますが、そういった議論は次回以降にさせていただき、今回は「水を確保する」という議論をしていただきたいと思います。

#### 【木内委員】

表が整理してあり、問題が明確になった気はします。前回の合意事項で湿地環境を残すという事でこのメニューができており、止水環境については○×がつき、流水環境については×という事になっています。当面できそうなのは止水環境ということで、湿地環境を残すための水確保となったのであり、(流水環境が×というのは)少々乱暴な話ではないでしょうか。

この協議会は荒川の自然を再生するための協議会であって、その流れを止めるようなことになってはいけないと思います。表の内容があまりに具体的な話になってしまっています。荒川の自然再生の方向性を消さないような形で協議を進めて欲しいと思います。

#### 【浅枝会長】

これから、ワークショップにおいて、そういった内容も含めて皆様に議論をしていただきます。まだ意見のある方もいらっしゃるかと思いますが、その意見はワークショップの中でお願いいたします。

ただし、(ワークショップを進める上で)かなり将来の話とこれから実際に行う話は区別して議論をしなければいけませんので、まずは旧流路の自然再生と言うことで議論をしていただきたいと思います。

#### 【山本委員】

基本的な質問なのですが、雨水の利用の中で、この池を作った場合に、どの程度の水量が確保できるのですか。

#### 【事務局】

年間 1200mm の降雨がありますが、流出率 95%と仮定すると、全ての池に対して(降雨により) 140 万 m<sup>3</sup> 程度の水供給を見込むことができます。精査の必要があるが、各池では上池が 10 万、中池が 70 万、下池が 70 万弱の水が、大まかではありますが、入っているものと思われれます。

#### 【行森委員】

今後、子々孫々にわたり残していく上で、動力を使わないという方向が良いとは思いますが、清浄な地下水を使いたい等どうしても必要なのであれば、補助的にポンプを使うことは否定すべきではないと思います。また、No.11 案のヨシマットについては、あまりにも過大な見積もりであって、1 万円札を並べるようなヨシマットは必要ない。ヨシマットを無くしたぐらいでも金額をはじきだせるのではないのでしょうか。

#### 【浅枝会長】

今のような、この案にはこんな事もありますよ、との意見も議論していただければと思います。では事務局からワークショップの説明をお願いします。

#### 【事務局】

23 ページに目標設定に向けた事業メニュー検討シートがあります。進め方は右上の四角囲の中にありますが、太郎右衛門自然再生地にふさわしい事業メニューの組み合わせを選んでいただき、その理由の整理、またそのメニューからどのような自然再生ができるかを議論していただき、内容の整理をしてください。

なお、委員名簿の3ページに各グループの編成が書いてあります。委員の皆様にはこの編成で議論していただきます。また、各グループにはコーディネーターとして学識委員が1名、補助の事務局員が2名つきます。その他の学識の方、行政委員の方々には各グループを回っていただき、質問に答えていただきたいと思います。内容のまとめは、23ページのシートにまとめてください。また、部屋割りは名簿の5ページにありますのでご参照ください。それでは、14:15から開始して15:00までワークショップにしていきたいと思います。なお、傍聴の方は自由に各部屋で聞いていただいても結構です。

#### (3) ワークショップ

- ・ 目標設定に向けた事業メニューについて

#### (4) 討議結果の発表

#### 【浅枝会長】

各グループから出された事業メニューや目標案について発表していただきます。Aグループから3分程度で発表していただきます。

#### 【Aグループ：三島委員】

- ・ A1+C2+ (E)
- 雨水を効果的に集める方法を検討する
- 地下水も考慮に加える
- ・ F1'+ (C2)
- 市野川の組み合わせ
- 安く市野川の水質浄化ができれば可能（安価な方法に改良する意味で F1'とした）
- ヨシ原マットをやめる。横提の撤去をやめてボックスカルバートを導入するなどコストを下げる工夫をする

#### 【Bグループ：恵委員】

- ・ 短期的には上池改良を目指す（Eの変形版）
- ・ 周辺水田からの年間10万トンの流入水を確保する
- ・ 地下2.5mの地下水位を掘り所に掘削し、湿地を徐々に増やす
- ・ 横提の掘削はせず、自然通水に期待する（砂利の層による）
- ・ 掘削はワンドなどを組み合わせ、多様に行う
- ・ それによって多様なヨシ原などを目指す
- ・ 雨水貯留の際にはU字溝は使わない

- ・井戸は使わない。ポンプが必要な場合、自然エネルギーでの対応を検討する（風車等）
- ・市野川導水案も将来的には検討する
- ・旧流路に水があふれたときには、本川に落とさないよう調整する

#### 【Cグループ：堂本委員】

- ・考え方
  - 荒川の自然環境を元に戻すために湿地環境を再生させることがまず必要
  - 今現在の自然環境を把握し、今以上のものを作ろうとしたとき考えられるのが今日の意見ではないだろうか
  - 事業実施に当たっては、荒川全体の自然再生と矛盾をしないように注意が必要
  - 可能性がある水供給については、よく調べて（精査して）もらう
    - ・最もふさわしい組み合わせ
  - A-2の付け足しとして市野川から水を引っ張り、雨水も利用する（A+C+F）
    - （ただし、F案については金額の精査が必要）
- ・補足
  - 雨水については農業用水も含めて考える（そこから、できるだけ多く持ってくる）
  - さらに水が必要であれば、ポンプを使っても良いのではないか。

#### 【Dグループ：小川委員】

- ・上池と中池の深さを同じにする
- ・上池で、年間の2/3の期間は水があるようにする
- ・上池と中池と下池をボックスでつなぐ
- ・雨水をためるため、新たなため池を掘ることも検討する
- ・ポンプは最初から考えない
- ・本川から水をいれる方法について、後々検討していく
- ・雨水の利用（流域の水を集める；ただし、水量は微量ではないかとの意見もあり）
- ・市野川の水を引く
- ・湿地を使った浄化
- ・連結の仕方には意見の差がある
- ・モニタリング重視なので、とりあえずやってみて、結果により修正をしていけばよいのではないか
- ・全体的に、自然をできるだけ利用した方法を用いたい

#### 【浅枝会長】

各グループからの発表で、どのグループでも出ていた案が、「雨水の利用」ということで、これに関しては皆様とも積極的に考えていらっしゃいました。この「雨水の利用」とは、雨水だけではなく、「農業用水」等の流域の水を集めるといった捉え方で良いものと思います。

市野川の導水については、あれ程大型の浄化施設ではなく、もっと自然に近い湿地をつくり、そこで浄化をしてはどうかという意見が3グループから出ていました。Dグループでも湿地を強調されていたので、似通った内容と思われます。

連結の仕方については差があるように思われましたが、その他は似通った部分が多

くありました。また、工夫をしたご意見を多くいただきました。

まだ、こういう意見があるとか、自分が言った内容が発表されなかったといった事はないでしょうか。

【木内委員】

強調しておきたいのは、荒川全体を保全したいという意見に反対はなく、今進めている（旧流路の）話は、現実にはできる話をしている（だけ）という区別はつけてもらいたいと思います。

【浅枝会長】

前日もこの事（今後の課題として荒川本川のこととも考える）は合意されていたが、今回は時間の制限上、全体の話をしないうとしているだけで、将来的には全体を含めた話をしていくということは、皆様方の頭の中に入れておいていただきたいと思います。

【行森委員】

Aグループの中で、本事業を通じて、荒川水系の水質が良くなることをもう一つの目標としたいという事で、市野川の水の一部でも（浄化施設に）引いて、少しでも浄化して下流に流したいということで、F案を支持しました。

【浅枝会長】

この件に関しましては、色々なグループで同じような内容が話されていきました。学識の方からコメントは無いでしょうか。

【嶋野委員】

前回の合意事項の1番目に、「現況の湿地環境を残す」とありますが、私の中でも現況の湿地環境のイメージが錯綜しています。話を聞いていても、イメージの幅が広いので、少し時間をかけて、ある程度イメージの統一をはかる必要があると思います。例えば、現況の湿地環境といっても、荒川の旧流路であった事をイメージする方は流水環境にこだわるであろうし、また湿地環境をイメージされる方は、常時そこに水がある湿原地帯をイメージすることもあるでしょう。もっと、積極的に湿地環境を考えると、例えば、湿地の中の一部に水路があって、その周辺に湿地帯が広がる釧路湿原のようなイメージ等になります。このイメージの仕方により、内容の幅が変わってくるため、事業の内容が全く変わってきます。「現況」というと、現地視察から考えると、あそこの地域は、水が溜まる時期と乾燥する時期が交互にうまく入れ替わりながら自然が循環し、生態系が保たれているのだと思います。

「現況の湿地環境」というイメージについては、事業の構想を立てる際に、常に考えておく必要があるのではないのでしょうか。その次に遠い将来をどうするかを考える必要があると思います。そのように進めていかないと、事業が中々固まらない気がします。

【恵委員】

私も同じ意見です。北海道に、キナシベツ湿原という釧路よりも小さい湿原がありますが、こんな小さな場所でも自然のダイナミズム、動態的なスケールがあります。（イメージの統一をはかるという）嶋野先生の意見に賛成です。

**【堂本委員】**

荒川の流水環境を将来取り戻したいという話については、きちんとした流水環境が取り戻せれば、皆が想像している様々な流水環境というのは普通に取り戻せるはずと私は思います。但し、一番危うそうな湿地環境から、また一番取り戻しやすい環境から手をつけていきましょう、ということが今議論している内容だと私は思っています。

**【浅枝会長】**

将来的なビジョンについては、皆様の頭の中に共通してあると思います。今回の議論は、事業として進めていかなければならないもので、そこに話を集中させる必要があります。その中で、将来像とは矛盾しない形で話を進めていくことが、今回のスタンスとなります。

そこで、議論を進める上で、一つ確認しておきたいのは常に水がある環境の方が良いのか、場合によっては、水が無い時期がある(地面は湿っている程度)の方が良いのか、ということです。これについて、何か意見は無いでしょうか。

**【染谷委員】**

2.5m 掘れば、地下水にあたるという話があったが、上池は、2.5m 掘って(地下水が出たとしても)中池のようにはならないだろう。掘削幅をもっと狭くして、鳥が立ち寄れるような水域になれば良いのではないのでしょうか。ただし、これらは個人の意見ですが。

**【浅枝会長】**

今のご意見は、水面とそうではない部分があり、しかも水位が多少変動するイメージということでよいでしょうか。

**【染谷委員】**

過去には中池が空になった事もありました。

**【浅枝会長】**

そういった意味では、攪乱も多少持ち込んでみましょうという意見ですね。

その他、連結の仕方、ボックスで通水させるのか砂礫層で自然に通水つなげるのかといった点については、何かご意見はないのでしょうか。

**【木内委員】**

横提の機能として、洪水時に水を貯めるということを聞きましたが、横提にボックスを抜いて支障は無いのでしょうか。また、できるのであれば、水面でつないだほうが良いと思います。

**【入江所長】**

横提の機能については、1.5m×1.5m のボックスを抜いたぐらいでは、問題はありません。

**【浅枝会長】**

下に砂礫層があるけれども、水面でつながっていた方が良いという意見に対しては、何かご意見はないのでしょうか。

【染谷委員】

湧水により上池に水が溜まるようであれば、底（砂礫層）でつながっていれば、良いのではないのでしょうか。改めて、掘削する必要もないように思われますが。

【大森委員】

上池の環境についての話が湿地という方向に向いている気がしますが、私は、掘削を行い、上池が中池のように水がたっぷりとある方が良いと思います。湿地になると、水位変動があるようになってしまいます。

【浅枝会長】

その他には。

【山本委員】

先ほどから 2.5m という数字があがっていますが、これはどこから出てきた数字でしょうか。

【事務局】

この数字は調査結果としてはまとめていませんが、現地調査の最新の情報として、今の地盤高から 2.5m くらい掘ってみると、地下水が確認できたという話です。

【浅枝会長】

この数字は場合によっては、3m くらいになるかもしれないという変更の余地がある数字と認識してください。（大森委員の意見に対し）先程の意見で、全体が池というのではなく、ある部分に常に水があれば良いという捉え方でも良いのでしょうか。

【大森委員】

旧流路（に水があれば良い）ということです。

【浅枝会長】

他の所で出ている意見にしても、基本的には、水が常にある部分と乾いた部分とが共存している形と捉えて良いだろうと考えております。

それでは、一度休憩を入れて、皆様の意見をまとめた形のものを作りたいと思います。

< 休憩 >

（5）第3回協議会での合意事項について

【浅枝会長】

各グループから出された意見が、似通っていて細部が微妙に異なる意見が多かったのですが、それを調整したものが、以下のものです。基本的には、多かれ少なかれ、各グループで出ていた内容をまとめたものです。

1. 雨水の利用を図る（近辺の高水敷の水を集める、場合によっては農業用水）
2. 掘削をして上池に水を集める（3m程度）
3. 高水時に本川から導水する
4. 池の連結を図る（手法は検討）
5. モニタリング重視（→順応的管理）

## 6.市野川の水を引く(湿地を使った浄化、コストを下げる)

### 1.雨水の利用を図る(近辺の高水敷の水を集める、場合によっては農業用水)

この内容は、どこのグループにも出ていた内容です。近辺の水を集めるだけでは不安があるため、「農業用水」を入れましたが、これには調整が必要であり、「場合によっては」という一文を入れました。

### 2.掘削をして上池に水を集める(3m程度)

上池にも常時水がある部分を作り出す。上池の掘削深さ3m程度は、今後の調査により多少変わる可能性があります。

### 3.高水時に本川から導水する

これも、どこのグループでも出されていた意見です。ただ、こういった形で導水するかは、今後、もう少し検討していくこととなります。

### 4.池の連結を図る(手法は検討)

ボックスカルバートか、地下水でつなぐかという議論はありましたが、ボックスカルバートとしても他と比べてそれ程費用がかかるものではありません。地下水層のつながりでは生物の往来ができないため、片方の池にしかいない生物は全滅する可能性がある。このような点からも、可能であれば、生物の往来ができる形で連結をした方が良いと思われます。ただし、今の手法は「たたき台」であり、詳細な形や費用については今後検討して決めるべきと思います。

### 5.モニタリング重視(順応的管理)

上の4点ともそうですが、基本的にこういった事業を進める上では、常にモニタリングを行い、状況を見ながら事業を進めて、場合によっては改良を加えるということで進めるのが良いと思われます。

## 6.市野川の水を引く(湿地を使った浄化、コストを下げる)

1から4の方法はコストが安いものの、それだけでは(水量が)十分ではないため、市野川からの導水についても考える必要があるでしょう。ただし、今回案として出していただいた、大掛かりなヨシ原ではなく、自然に近い湿地を使った浄化を考え、コストを下げることを考えていく必要があるでしょう。流量を少なくすれば、対象水を流域(湿地)にバラ撒くことで、浄化はかなりできるはずなので、そのあたりをうまく行い、コストを下げて進めていくのが良いでしょう。

これらについて、ご質問は無いでしょうか。

先程から述べていますように、まだ詳細な検討については、もっと良い方法があると思われるので、これら詳細については実際の工事が行われる際にもっと具体的に検討を行うこととします。

その他に意見等はないでしょうか。

(特に意見なし)

それでは、いかに水を確保するかということについては、こちらに書いてある6つの事項で合意したということにさせていただきます。

それでは、続きまして荒川太郎右衛門地区自然再生全体構想目次案について、事務局からご説明をしていただきます。

(6) 荒川太郎右衛門地区自然再生全体構想目次案および合意結果シートについて

(事務局説明) [資料 - 3 参照](#)

【浅枝会長】

今のご説明に質問等ございますか。

【佐々木委員】

基本方針では「区域」となっているが、目次案では「地区」となっています。どう違うのでしょうか。

【事務局】

「区域」が正しいです。修正をいたします。

【浅枝会長】

目次案については、しっかり修正されたものが、後で配られるそうです。

【佐々木委員】

今の目次で、「流量・流況・水質」が太郎右衛門地区のみになっているが、今後の導水先についても「流量・流況・水質」の情報が必要ではないでしょうか。

【浅枝会長】

目次案の3)のデータの項については、基本的に関係する場所すべてのものが出てくると思います。また、細かい部分でお気づきの点があれば、事務局までご連絡ください。

【事務局】

今回は、11月の下旬を予定しております。また、議事要旨につきましては早々にお送りしたいと思います。

また、有志による徒歩での現地調査を11月11日(火)、20日(木)に計画しております。詳細につきましては、後日ご案内申し上げますので、ご希望の方はご連絡ください。

5. その他

6. 閉会